

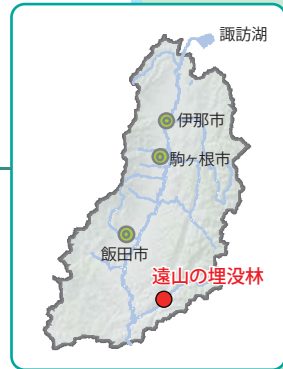
とおやま まいぼつりん  
**遠山の埋没林**

埋没木が語るもの

714(和銅7)年の大地震で山が崩れ、遠山川の堰き止め湖に木々が埋没した。現在は、当時の埋没林が河床に露出しており、南信濃大島、畑上、大淵などで見ることができる。これらの木のほとんどは、直径50cm以上の大木で、中には直径1m以上の巨木や樹齢700年以上のヒノキもあった。



大淵地区の埋没林



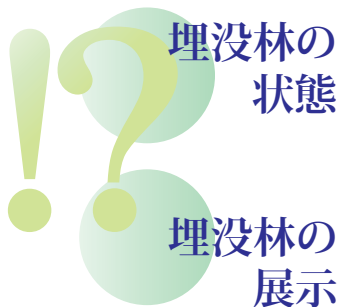
information

□ アクセス

天竜峡ICから45km  
車→1時間30分

□ 所在地

飯田市南信濃



土砂の中から姿を現した埋没木の数は50数本にも達し、その半数は立ったままの姿で地中に埋もれていた。

他の地域の埋没木と比べると新鮮な色を保っており、その心材の強度も現生木に劣らない状態であった。その理由は遠山川の清流に浸されていたためと思われる。

埋没していた樹木の一部は、南信濃自治振興センターや旧木沢小学校、『梨元ていしゃば』に展示されている。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)